

第 13 回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成 30 年 8 月 6 日（月） 10：00～11：50	場 所	東海村役場 行政棟 5 階 原子力視察研修室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，荒木田委員，原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，委員川崎（道）委員 事務局／企画総務部 企画経営課 佐藤課長，石井課長補佐，松崎係長，照沼主事 建設部 都市整備課 河西課長，高橋課長補佐，横山係長，大内技師 欠 席／久賀委員，鈴木（さ）委員，鈴木（千）委員 (◎：委員長，○：副委員長)		

○当日の活動・協議内容

1 開会（企画経営課佐藤課長）

2 小原委員長あいさつ

本日は，村長にご出席いただきありがとうございます。一つのターニングポイントを迎えているかと思います。私からは村長のお話の後に，学問的なフレームワークを含めた話になるか，研究者としての解釈の話になるかわかりませんが，改めてコメントさせていただきます。本日もよろしくお願いします。

3 村長挨拶

委員のみなさま方には，長きに渡って検討を続けていただき，誠にありがとうございます。委員会の立ち上げ当初，「今までにない方法で（委員会を）始めた。」と申し上げ，委員長にはご苦労をおかけしたかと思えます。役場として案を持たず，みなさんの御意見をいただき，事務局が誘導をしませんでした。当然，誘導しないということは，たくさんの意見が出てきます。それをまとめることは大変だと想定していましたが，その難しさを感じているところです。「こうあったらいいな」という理想を，本日の資料にも将来デザインとして落とし込んでありますが，「これを全て役場が実現すればいい」と言われてしまうと，カネやヒトの問題があり，難しいということをご理解いただきたいと思います。一方で，みなさんが考えたことが何も実現しないということもいかなるものです。その実現可能性は探っていく必要があると感じています。8月には福井国体予選である，ホッケー関東ブロック大会，9月には茨城国体のリハーサル大会である全日本社会人ホッケー選手権大会も始まります。来年に国体開催が迫っているところですが，本委員会が始まる時には，国体に間に合わせる取組みも出てくる期待もあったかと思えますが，ハード整備的には，残り1年では難しいところもございます。いずれにしても，村松地区は歴史資源や科学的な要素も有し，歴史と科学が融合するという意味では他にはない地域です。この良さを東海村の強みとしてアピールすることが必要です。国道 245 号の拡幅も，国体までに北側から阿漕ヶ浦公園入口までは行う予定です。来年の今頃には，4車線化が目に見えるようになるかと思えます。本計画につきましても，早期に策定し，事業を推進することを本気で考えなくてはいけないと思っています。後ほど，サウンディング調査という新しい取組みを紹介いたします。みなさんからの想いを実現したいと思えますが，運営面において，公設公営でできる時代ではありませんので，実現可能性も含めて十分検討し，それに基づいて計画を推進していく必要性があります。みなさんの想いを前進させるために，お力をお貸しいただきたいと思います。これまで進めてきた時間が無にならないように，村としても努めてまいりますので，ぜひ，これからもご協力のほど，よろしくお願いいたします。

(村長に対する質疑)

- 村長にはもっと、ポイントごとの委員会に出席してほしかった。また、みなさん、役場に任せようというスタンスではないだろう。役場が主を担うのだろうが、地域や組織が様々な形で、それぞれの立場でできることを協力する必要がある。土地の問題やJAEAの問題があり、そのためには、村が、地域がある。みなさんの総意は、「国道拡幅と国体開催の機運を逃すと、経済的な面で（活性化を推進するのが）厳しくなるのではないか」と考えているかと思う。可能性がゼロなのに、時間を割くのはもったいない。その辺を汲んでいただき、計画を立てるだけでなく、進めていただきたい。村長からJAEAに対し、まちづくりに協力してほしいと言っていることは耳にしているが、そこから先の部分をしっかり進めてほしい。(井坂委員)
- ➔ 村有地については村が整備すれば済むかもしれないが、JAEAの土地は協議が必要になる。村が用地を取得して、整備する場合、議会等も含めて説明責任が発生する。そこは慎重にならざるを得なかったということは事実だ。ただ、実行するためにはどういった条件が整えばいいのか、そこは事務方と協議していても、最後の決断ができなかったというのが正直なところだ。私一人の決断でできることではない。時間はかかっているが、関係者の合意を得た上で前に進めたい。私はやりたいと思っているが、それを組織としてオーソライズすることは別の手続きだ。時間がかかりすぎたかもしれないが、実現可能なものに仕上げていきたいと考えている。(村長)
- 全ての中心になる駐車場が必要だ。JAEAが使用中の土地は、担当者ベースで協議してもどうにもならない。あそこは元々、村松小学校の土地を提供したものだ。JAEAも、震災前のような事業規模ではなくなると思う。そう考えたときに、土地を駐車場として使えないか。ぜひ、村とJAEAのトップ同士で話し合っ、良い方向にもって行ってほしい。(川崎道委員)
- ➔ 国道拡幅に伴い、さわやかトイレ周辺の駐車場台数が減少する。その減少分については、どこかに確保しなくてはいけない。細浦寄りについては、松林を伐採し、駐車場を確保することもできるが、さらに広くするならば、適地は限られている。タイミングは難しいが、あの周辺に駐車場が必要だということは、私も理解している。それとは別に、村松の幼保跡地（の駐車場整備）には、虚空蔵堂や大神宮への回遊性といった機能も必要だろう。私も、そこは同意見だが、具体的な進め方について協議まで至っていないのが事実だ。役場としても、重要性は認識しているので、今後、JAEAと協議していく必要があるかと思う。(村長)
- ➔ 村長が仰るように、本計画は村だけではできない。「どれか実現すればいい」というのも一つかもしれないが、真の結論は、「土地の所有者は誰か」、「誰がやりたいのか」といった、夢の実現にあたって、ステークホルダーがどう絡みあって目的に到達するかということではないだろうか。しかも、短期間ではない。長期の取組みについてどうすれば実現できるか（案を）出すことが課題であり、それを出すべきか議論した。つまり、カネやヒトが限られている中、どう実現するかきっかけ（道しるべ）を作ることが最大の成果ではないか。国が進めることしかできなかったところでも、できると示す好事例になるのではないか。それに村長が意思をぶつけていただきたい。(坪委員)
- ➔ これまでにない手法で始めているので、モデルケースなり得るかと思う。限られた関係者で決めるのではなく、地域の人も含め想いを形にする意味で、タイミング・課題をどこで明らかにするか、正式な会議の場で議論することができそうでできない。本会議については、従来の手法を越えて、課題を解決していくという気持ちが必要だ。これまでも時間をかけてきたが、今後はさらに、実現可能なものにブラッシュアップしていくことを考えれば、今まで出せなかったものを含め、大胆に取り組む必要もある。今後は、委員長とも相談しながら、みなさんの熱

意が冷めないように対応したい。(村長)

- ➔ 本委員会が始まったのと同じぐらいのタイミングで、JAEAでも将来的なことを考える検討会のようなものが始まった。そこでは財政等の制約が厳しく、どこまでできるかはある。村長にも少しずつ提案させていただき、JAEAのみでできる部分と村と一緒に取り組む部分があるかと思う。そういった提案を継続していきたいとJAEAの中でも考えている。具体的にお示しできる段階には至っていないが、ご理解いただきたい。(藤田委員)
- ➔ JAEAとしても、単純に村に土地を売るのでは、土地代を上を召し上げられるだけだろう。そうすると、JAEAとしても活用できるようなものを一緒に考えていった方がいいかと思う。JAEAの事情も慮りながら、一步踏み込んだ意見をさせていただきたい。(村長)
- 何か動くきっかけとなる委員会となれば素晴らしい。何もない所から村民の想いが集まり、それが一つでも前進すれば素晴らしい。何でもいいので一つ作ってしまえば前に進むかもしれない。(川亦委員)
- ➔ 後ほど、サウンディング調査について担当から説明があるが、これも実現可能性だ。通常、調査を実施すると、「可能性が低いのでやめましょう」といった具合に、止めるための材料となりがちだ。今回はあくまでも、実現するためにどうするかの手法だ。「こういう条件を整えばできる」といったところが明確になれば、みなさんも良かったと思えるだろう。先進事例を参考としながら、東海村の可能性を探っていきたい。(村長)

※公務により、村長退室

- この後、サウンディング調査について説明がある。「民間との連携」や「住民と協働」は、まさに本委員会に当てはまる手法だ。今、茨城大学では、公務員が社会人コースに在学しており、茨城町から来た公務員が涸沼を活用したPPPやPFIの可能性、サウンディング調査について研究している。ただ、大枠がないと民間が乗ってこない。その点、これまでの委員会で、大きなコンセプトを作り上げることができて良かったと思う。東海村全体でみれば、社会的に良くも悪くも注目を集める。民間にとっては興味を示しやすいかと思う。これを「村松」としたときに村松の顔やイメージがないと、民間としては手を出しづらくなる。そこで、委員のみなさまのご協力により大枠ができていると、提案しやすい。例えば、茨城町で言うと、涸沼という強烈なアイコンがある。少し悔しいが、一步進んでいるのが霞ヶ浦だ。「かすみがうら未来づくりカンパニー」というものがある。これは、PPPでもPFIでもなく、「社会起業家」といった人が地域の課題を解決しながら、かつ、お金を生み出すようなものを始めた。それほど規模が大きくはない上、始まったばかりなので、ビジネスとしては黒字にはなっていないと思うが、霞ヶ浦という強烈なアイコンを元にしながらかつ様々なビジネスを展開する。観光もそうだが、道の駅のような直売所や物産をつくる、住民福祉を含めて様々なものに手を出し始めている。民間へ向けても発信できる村松のイメージを作ることは本委員会の一つの課題だと考えている。その中で、村長が仰った条件が出てくれば、駐車場の問題や土地の問題等、進めやすくなるのではないだろうか。村長から「(委員のみなさんは) いらいらしているのでは」といった言葉があったが、私はそういうつもりはない。外から見たら強烈なアイコンがなかった村松にアイコンを作り始めているのではないかと思う。それをうまくハード整備に結び付けていただきたい。本委員会としては、ハード面・ソフト面において一つでも二つでも目に見える形にさせていただきたいと思う。同時に、外へ発信できるコンセプトを具体化する作業もまだまだ必要だと感じる。PPPやサウンディング調査等、どういった手法をとるかは別として、全体とし

てそういった地区の将来像を練る必要があるかと思うので、もう少しお付き合いいただきたい。退室された村長へもうまく伝えていただきたい。(小原委員長)

(1) 東海村(仮称)村松地区周辺地域活性化計画について

※松崎係長より資料1～3について説明

- 官と民という言葉が気になる。まず、「行ってみたい」といったコンセプトがあった。それは必ずしも、ものづくりではない。ソフト面も含む。なぜ、サウンディングが必要なのか。将来デザインを実現するところにサウンディングしか入っていない。説明を聞いたら分かるが、座標がずれていると感じる。まるごと博物館のような、ハードがなくてもできるような取組みが出てくればいい。最初からサウンディングというのが気にかかる(坏委員)
- ➔ ハード整備に関しては、計画上、村が取り組みますと書くことは難しい。仰るとおり、ソフト面が重要で、コンセプトとして、村松地区をどうするかはハードありきではないことはご理解いただきたい。ただ、ハード面のご意見をたくさんいただいているので、そこを一步進めるためには、こういった可能性を探る手法がある。それに並行して、これまでの素晴らしい取組みがある。滞留施設となると、地域のためにもなるが、外から人を呼び込む面もある。その両面の話を進めるために、サウンディング手法をとってはどうか。ハード面の実現について、こういった手法を提案している。決して、ハードありきで考えているわけではない。(松崎係長)
- ➔ よく分かった。それならば、ハード面は、ソフト面はこうだと入れた方がいいかと思う。(坏委員)
- サウンディングとは市場調査を依頼するという意味か。(井坂委員)
- ➔ 依頼ではなく、「村松地区を活性化するための取組みを考えました」と広く対話に出すと、民間事業者が手を挙げ、アプローチがあるイメージだ。一対一の対話の中で、A事業者しか持ちえないノウハウの提案がされるので、個別に話して、実現可能性はどこまであるか、難しいのであれば、どこを改善すればいいのか、といったことを対話する。一度、サウンディングで対話したからと言って、その事業者に決めることはしない。あくまで対話だ。やりたいことをやりますと宣言する前に、可能性を探るものだ。(松崎係長)
- ➔ 事業者にはJAEAも含まれるのか。(坏委員)
- ➔ 制限はない。地域のNPOや民間事業者もある。対話なので、聞いたらから実行しなければいけないということはない。より良いものを作り上げるための対話だ。(松崎係長)
- ➔ 「良い提案をください」と公募をかける。そのために、将来デザインが必要で、これまでの意見を凝縮し、イメージとして可視化する。その中で、私の団体ではこんなことができるといった意見を応募いただく。(佐藤課長)
- ➔ 村長から「村がJAEAから土地を買っても、お金は国へいく」とあったが、提案はできる。事業者のみから意見をもらうのでは、私たちは提案できなくなる。そのため、例えば、JAEAの提案も受け入れられる手法がいいかと思う。(坏委員)
- ➔ これまでは「民地に将来像を描いたもので計画を作り上げていいのか」といった問題があった。サウンディング調査の場合は、それが可能となった。一つのデザインとして、絵を描いてそこに団体から提案をいただくものだ。本委員会で議論したものの活用を考えるにあたっては有効だろう。決して、事業者へ丸投げするわけではない。提案いただいた中で、活用できるものは対話しながら進める手法だ。(佐藤課長)
- サウンディング調査で公募した結果、どこからも手が挙がらない可能性もあるのではないか。(川崎道委員)

- ➔ 民間事業者は市場性で判断する。当然、「大規模駐車場や道の駅は無理です。」といった可能性もある。そこで立ち止まるのではなく、「では、村松地区としてどうするか」と次のステップへ進むこともできる。厳しい可能性も視野に入れる。(松崎係長)
- ➔ コンサルタントへ丸投げではないことがわかって安心した。一点、意見を聞くときに、役場だけではなく、委員からも聞くことができる体制をとっていただきたい。(井坂委員)
- まず、委員会のスケジュールが曖昧になった印象を受けた。委員会への報告はどこになされるのかが消えてしまった。サウンディング調査については、本委員会の先(計画の推進会議の段階)にあるものだと思う。以前から感じていたことだが、私たちがやるべきスケジュール感を一貫してほしい。そうすると、関わるべき人が私たちなのか。サウンディング調査は、資料2のような、全体の話として出すのか、だれが何をどのように進めるか、適するもの・適さないものがある。ざっくり、サウンディング調査の中に入れていいのか、今後考えることになると思う。その中で、JAEAが関わる部分と村が主体となる部分が出てくる。ざっくり出す前に、本委員会で共に整理し、将来はこんなことを考えているといった選択肢の一つとしてサウンディング調査があるならば、それを意識して、コンセプトはサウンディング調査にあてがう、ここは住民主体といった形がスケジュールに出てくると思う。もう一つ、地域へどこで説明するか。これだけ大きなことを進めるには、周知や理解が必要だ。すでに様々な取組みが実施されているが、民間が参入したときに、地域が理解できるかはある。切り口の階層を分けて、本委員会との整理が必要だ。サウンディング調査だけいきなり出てきて、本委員会として何をやりたいのか、私にとっては理解しづらかった。今日、このためだけに集まったのならば、少し残念な気持ちだ。(安尾委員)
- ➔ なぜ、今更このような話が出てきたのか。役場として考えを持っていて、本委員会が終わってから進めればいい。委員は集まることに対して辟易している。大神宮や虚空蔵堂にとってはありがたい話だが、支離滅裂だ。また、サウンディング調査で話を聞くとなったら、振り出しに戻った感がある。(荒木田委員)
- ➔ 大きな目で見れば、活性化の可能性が高まったかもしれないが、このタイミングでこの話が出てくると、厳しい。できない理由にされては困る。サウンディング調査自体はすごくいいと思う。ただ、こうやってみると、スケジュール感がまっさらになったと感じる。(原委員)
- ➔ これまでに、中間報告ということで、ご意見をまとめ上げて提示した。一方で、みなさまから出た意見や夢が、計画上見えにくい。道の駅や駐車場だけではなく、面で捉えて、将来的にどういった地区を目指すのか目に見えるものがないと、方向性が不明瞭な計画になる可能性がある。そのため、パース図等で将来デザインを掲載し、村松地区がどうなりたいたいかイメージできるものを作る。その上で、サウンディング調査を活用する。計画策定後、「あとは村がやります」で果たしていいのか。せつかくサウンディング調査を行うのであれば、その中の対話についても皆さんで話し合い、実効性を高めたい。サウンディング調査の結果、厳しい現実をつきつけられるかもしれないが、そこはそこで共有したいという思いがある。まだ委員会を続けるのか、というお気持ちも理解できるが、今しばらく、お付き合いいただきたいというのが、事務局の意見だ。(佐藤課長)
- サウンディング調査を検討する間、並行して阿漕ヶ浦公園や駐車場の整備に取り組むということでもよろしいか。(川亦委員)
- ➔ そのとおりだ。取組みの先送りではなく、スケールの大きな話なので、村松地区の将来増へ向けて、3年・5年・10年とどう近づけていくか、見える計画にする。(佐藤課長)
- ➔ 阿漕ヶ浦の前に空き家があるが、更地にする等の話は進んでいるのか。目先のこともできない

ならば、10年先のことを考えられないのではないか。確かに、国体へ向けて阿漕ヶ浦公園は整備された。だが、そこへのアプローチはできていない。目に見えるところを示してもらいたい。

(荒木田委員)

- 東海村はサウンディング調査をやったことがない。当然、委員もサウンディング調査に明るくない。残り半年でサウンディング調査を実施する道筋は立っているのか。(安尾委員)
- ➔ そのための材料は、これまでの委員会の中にある。方向性や大きな意見をいかに可視化できるかという作業にしたい。たとえば、道の駅があれば、地域でこんなことができるといった議論を本委員会で議論できていれば、サウンディング調査の結果を待たずに、様々な話ができる。ただ、サウンディング調査にかける案件については、行政だけでも民間だけでもできるものではない。できることから取り組む必要があり、ソフト面や地域については、立ち止まる必要はない。スケジュールとしては説明しきれていないが、そういった手法で進めたい。(松崎係長)
- 将来デザインパス図のJAEAの土地等に絵を描くのは難しいが、サウンディング調査ならばできるというお話があった。デザインを決めるのはサウンディング調査の前だろうが、それはそれでいいのか。(安尾委員)
- ➔ あくまでデザインだ。また、前例もある。(佐藤課長)
- ➔ そうすると、10月までに完全な夢物語では仕方ない。これまでの意見を絵にするだけでも大変かと思うが、その素地はあるのか。(安尾委員)
- ➔ まだ具体的な絵はない。ただ、資料2のようなイメージはある。あくまで、サウンディング調査にかける将来デザインはイメージとして進めたい。具体的な設計や規模を示すものではなく、こういうコンセプトで村松地区を活性化させていたので、こういう視点での施設はできないかと(公募に)出す。それに対して、民間事業者から「これぐらいの建坪で、年間これぐらいの人が来れば、商売が成り立つ」といった具合的な提案をされる可能性はある。そうなれば、行政が参入せずとも、民間同士で交渉して土地を取得するかもしれない。100年先を見据えた第一歩とはこういうことかと思う。(松崎係長)
- 優先順位はどう考えているのか。現時点では、阿漕ヶ浦公園の整備に予算を費やしているのだろうか、他へは投資していない。(荒木田委員)
- ➔ だからこそ、サウンディング調査を行う。その結果、民間事業者から「阿漕ヶ浦公園にシャワー付きの設備を造れば集客が見込めるので、整備を進めたい」といった意見が出てくる可能性がある。そういった可能性を探るためにも、サウンディング調査を実施したいと考えている。(照沼主事)
- ➔ 東京とは違う。わざわざ車で来る人が何人いるのか。(荒木田委員)
- ➔ 「村がここまでやれば、その先は民間が整備する」といった話が対話の中で生まれる可能性はある。たとえば、阿漕ヶ浦に、千波湖のような遊歩道ができランナーで溢れることが無駄だと思う人はいないだろう。ただ、当然、莫大な費用がかかるので、行政の視点では無理だと言わざるを得ない。そのため、サウンディング調査の中で民間と対話しながらどういう可能性があるか探っていきたい。(佐藤課長)
- ➔ ランニングコースを描いているところには村道もあるが、他は私有地になる。そういった土地の提供を受ける目安も全くないのか。(荒木田委員)
- ➔ 今のところはない。(佐藤課長)
- ➔ 詐欺のような話だ。たしかに、ランニングコースがあればいいが、まず、土地の提供を受ける必要がある。所有者が簡単に土地を提供するとは思えない。大神宮は地域にお世話になっているので、可能な限り協力してもいい。新しい言葉を出されるよりも、この部分の土地の提供を

受けたという報告があった方がよっぽどいい。活性化するために、こういう犠牲をお金が必要だといった具体的な話がほしい。こっちが負担をするような話でもいいので、出してほしい。

(荒木田委員)

- 将来デザイン(例)とあるが、もし、パース図を作るのであれば、詰めが必要だ。ランニングコースがコンセプトを体現するのか。どういうプロセスでランニングコースやカフェが生きてくるかだ。私が民間事業者だとして、資料2を見たときに一体ここからどうやってお金が生み出されるのかと考える。パース図を作るということは、細かいところも含め詰めが必要だ。事務局としては、残りの半年のスケジュールをどう考えているのか。(小原委員長)
- ➔ パース図を描くにも、村として予算を確保して手続きを進める必要がある。10月までに絵ができあがるのではなく、そこまでに契約手続きを終えて、とりかかる。その後、どういった絵を描くかが重要になるが、どういった切り口で描くか、みなさんに協議いただきたい。それを元にパースを描く業者と協議をして、将来デザインとなるスケジュールだ。(松崎係長)
- ➔ 委員会としては、何回ぐらい詰めるチャンスがあるのだろうか。(小原委員長)
- ➔ 最低でも2回はあるかと思う。(松崎係長)
- ➔ 短期・中期・長期を1枚の絵に入れ込むことは大変だ。2Dか3Dとするのがいいのか。それをどう楽しみ・ビジネスにつなげるかの戦略を描かなければいけない。言葉で捕捉してはパース図でなくなる。かなり大変な作業になるため、早めにスケジュールを固めていただきたい。次回はここまでやるということを示さないと、委員の負担感も強まるだろう。(小原委員長)
- サウンディング調査とは結局、民間事業者より採算を含めた意見や事業計画を提案してもらうことかと思う。様々な事業者より提案があった場合、精査する必要があると考えているということか。村松地区の全般的なパース図であったら誰も手を挙げないだろう。部分的ならば交渉する業者が出てくる可能性があるが、全部では出てこない。(川崎敏委員)
- ➔ ランニングコースのような断定させたものではなく、阿漕ヶ浦を活用したにぎわいづくりのような、具体性のレベルを下げた方が、民間からの提案を受けやすいと聞いている。(佐藤課長)

(2) その他

※大内主任より資料「村松周辺駐車場」について説明。

- 駐車場と同時に検討いただきたいのが、駐車場から社寺へ続く歩道だ。正月の流れを見る限り、国道沿いを歩く方もいる。今は結構細い歩道だ。せっかく新しくするならば、広めの歩道を確保できないだろうか。また、たとえば、タイルの貼り方一つでも、まちなみ保存地区のような観点がほしい。メインは宿通りだが、阿漕ヶ浦公園からのアクセスもある。歩道が整備されていると、駐車場が遠くても問題はなくなるかもしれない。(原委員)
- ➔ すぐにといいわけにはいかないが、(阿漕ヶ浦公園周辺に)駐車場を新設する予定もあるので、今後の課題として受け止めたい。(河西課長)
- 2019年の国体までにどこまで4車線化されるのか。(川崎敏委員) 7
- ➔ セブンイレブンがある原研の入口から阿漕ヶ浦公園入口までは整備すると聞いている。(河西課長)
- ➔ 国体開催までに資料にある村松駐車場の44台減はないのか。さわやかトイレ駐車場もいじることはないのか。(川崎敏委員)
- ➔ ない。国体の後だ。(河西課長)
- 資料に「公園新設駐車場約360台」とあるが、ここは民間の土地だ。(川崎道委員)
- ➔ 現在、計画を進めている最中だ。地権者の方におおよそのお話はしているが、今度説明会を実施する予定となっている。こちらも、国体までに整備する予定ではない。ホッケー場やサ

ッカー利用の要望を踏まえての駐車場だ。(河西課長)

- 公園新設 360 台は素晴らしい。前村長時代、道路を造る話があったが、一部の地権者が反対したと聞いた。今は状況が変わっているのだろうか。(荒木田委員)
- ➔ 今のところは順調だ。駐車場を新設するにあたって、阿漕ヶ浦公園のアクセス道路が公園の中を通過して村道に抜けるようになっているが、そのあたりも改善したい。(河西課長)
- ➔ もう一点、村松駐車場についてパークホテルあづまの方へ拡張する案はあるのか。それとも、このまま残すのか。(荒木田委員)
- ➔ 現状、松が枯れている部分の切り株が残っているので、そこを整備して数台分駐車場を確保する。松林の部分も枯れている箇所があるが、高さが違う。その辺は今後の計画に考慮していきたい。(河西課長)

4 閉会 (佐藤企画経営課長)

(以上)